

論文審査の結果の要旨

博士の専攻分野の名称	博士 (医学)		氏名	岡田 健司郎
学位授与の条件	学位規則第 4 条第 1・2 項該当			
論文題目 Prognostic Significance of Lymph Node Metastasis and Micrometastasis Along the Left Side of Superior Mesenteric Artery in Pancreatic Head Cancer (膵頭部癌における上腸間膜動脈左側リンパ節の微小転移を含めた転移の予後への影響)				
論文審査担当者				
主査	教授	大段 秀樹	印	
審査委員	教授	有廣 光司		
審査委員	教授	栗井 和夫		
〔論文審査の結果の要旨〕				
<p>本研究は、膵頭部癌における上腸間膜動脈近位左側リンパ節(以下、SMA-LNs-lt)への微小転移を含めた転移率と、予後に及ぼす影響について検討することを目的とした retrospective study である。2002 年 5 月～2017 年 11 月の対象期間で、膵頭部癌に対して領域リンパ節郭清を伴う根治術を施行し、SMA-LNs-lt の病理学的検索が可能であった 166 例を研究対象とした。微小転移の検索は、HE 染色で陰性例に対して、抗サイトケラチン抗体 CAM5.2 を用いた免疫染色で評価した。臨床病理学的因子と全生存期間(OS)との相関について、単変量・多変量解析にて検討した。166 例中、SMA-LNs-lt に対して HE 陽性 20 例(12%)、微小転移陽性 8 例(5%)、転移陰性 138 例(83%)であった。HE 陽性群、微小転移群、転移陰性群の 3 群の生存期間中央値(MST)は、13.1 カ月、19.1 カ月、31.3 カ月 ($P=0.046$)であった。HE 陽性群と微小転移群を併せた SMA-LNs-lt 陽性群の MST は 14.1 カ月で、陰性群と比較して有意に予後不良 ($P=0.015$)であった。OS に対する多変量解析にて、SMA-LNs-lt 転移陽性 ($P=0.034$)、門脈合併切除(HR: 2.19, $P=0.002$)、組織型 G2/3(HR: 1.69, $P=0.046$)、領域リンパ節転移陽性(HR: 2.64, $P=0.002$)、術後補助化学療法なし(HR:2.42, $P<0.001$)が独立した予後不良因子であった。SMA-LNs-lt 転移陽性群 28 例におけるサブ解析では、OS に対する多変量解析にて、術後補助化学療法なし(HR: 4.37, $P=0.003$)が独立した予後不良因子であった。膵頭部癌における SMA-LNs-lt は、HE 陽性率 12%、微小転移率 5%であり、SMA-LNs-lt 陽性は独立した予後不良因子であるが、SMA-LNs-lt 陽性群であっても、術後補助化学療法の併施により予後延長が望まれることが示唆された。</p> <p>以上の結果から、本論文は、膵頭部癌における SMA-LNs-lt の転移頻度とその予後に与える影響を明らかにしたもので、今後の膵癌外科治療の方向性を示す上で有意義な論文と考える。</p> <p>よって審査委員会委員全員は、本論文が岡田健司郎に博士(医学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>				